

港湾振興便り



2026.10

第233号

*:**

目 次

*:**

1 ポートエッセイ — 次世代を担う若者たちに —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

●「北陸のくらしを支えるみなと講演会2026」を開催！

(北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所)

●東京湾大感謝祭 2026 を開催しました！

(横浜市 港湾局みなと賑わい振興部賑わい振興課)

●境港、徳山下松港、宇部港がサーキュラーエコノミーポートに選定されました。

(中国地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)

3 お知らせ

◇海から見る能登復興見学クルーズ

(北陸地方整備局 能登港湾空港復興推進室)

◇伊勢湾再生シンポジウム2026

(中部地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課、愛知県)

:

1 ポートエッセイ ― 次世代を担う若者たちに ―

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 ハー ～

:

今年、新潟市は、大きなイベントが次々と開かれる一年となっている。

以前、本誌でも紹介した「国際青年会議所アジア太平洋エリア会議(ASPAC)」をはじめ、「全国消防救助技術大会」「TGC(東京ガールズコレクション)」「世界湿地都市ネットワーク市長会議」等々である。

その一つが、新潟で初めて開催された「TGC 新潟 2026」だ。史上最大級のファッションフェスタには、県内外から多くの若者が集まり、ファッションショーやライブステージ、市民モデルによるランウェイなど、会場は熱気に包まれた。市民モデルの皆さんに続いて、私も新潟市の伝統織物「亀田縞」のジャケットとスカーフを身にまとい、登壇した。

夢や目標に向かって一歩を踏み出す若者たち。その姿にエールを送りながら、私からは、伝統もまた、挑戦する人がいるからこそ次の時代へ受け継がれていくという思いを伝えた。全国から若者が集まり、いつもの新潟とは少し違う空気がまちを包む。ファッション、音楽、アート、食。さまざまな文化が交わることで、新潟が持つ魅力や地域資源が、新しい形となって全国へ発信される貴重な機会となった。

そして今、新潟が力を入れているもう一つの分野が、若い世代にも人気の高いアニメーションだ。先般、新潟におけるアニメーション制作業のさらなる集積と発展を目指し、「アニメーション制作業分野における地域産業クラスター計画」を策定した。これは、国が進める「地域未来戦略」に基づき、地域が持つ特性や強みを生かしながら、産業の集積と発展を図る取り組みの一つである。

新潟は、これまで数多くのクリエイターを輩出してきたほか、アニメーションを学べる教育機関があり、アニメ関連企業の立地も進んでいる。

「学ぶ」。「作る」。「発信する」。その一連の流れが地域の中でつながっていることは、新潟が持つ大きな強みである。

産業が集まり、人が育ち、そこから新しい作品や価値が生まれる。そうした循環をさらに広げていくことが、地域経済の新たな力へと育っていく。

これからの時代を担う若い世代に、夢や希望を届けたい。そして、「このまちで挑戦したい」「このまちで暮らしたい」と思ってもらえるまちづくりをこれからも進めていきたい。

:

2 トピック

*:

●「北陸のくらしを支えるみなと講演会2026」を開催！

(北陸地方整備局 新潟港湾空港技術調査事務所)

令和8年9月24日(木)に、「北陸のくらしを支えるみなと講演会2026」を開催しました。

本講演会は、市民の皆様に北陸の海・空のみなとづくりについて関心と理解を深めていただくことを目的に開催しています。

今回は、特別講演として、佐渡市役所 観光文化スポーツ部 部長 飯島一隆 氏より「港から始まる世界遺産「佐渡島の金山」への旅」と題してご講演いただきました。金銀、祭り、船と港など様々な視点からみた佐渡島について、歴史的風致や世界遺産、伝統的建造物群保存地区などの制度も交えながらお話いただきました。

当事務所からは、令和6、7年度に当事務所水理実験場において新潟大学と実施した共同研究について、実験に携わった学生から、研究内容や成果をご報告いただくとともに、職員からは、令和7年度に策定した「自動係留装置導入ガイドライン案」について、その概要や導入・運用時の留意点等を報告しました。

当日は、計141名(会場:61名、オンライン:80名)の方にご参加いただきました。ご参加いただいた皆様、大変ありがとうございました。



飯島氏ご講演の様子



会場の様子

●東京湾大感謝祭 2026 を開催しました！

(横浜市 港湾局みなと賑わい振興部賑わい振興課)

横浜市が共催する「東京湾大感謝祭 2026」が、9月26日から27日にかけて横浜市庁舎アトリウムで開催されました。本イベントは、東京湾の再生や環境・自然の保全をテーマに、関係省庁や東京湾沿岸の自治体、企業、NPO 団体等が連携し、それぞれの取組や東京湾の魅力を発信するもので、今年で14回目を迎えました。二日間で 12,000 人を超える来場者が訪れ、東京湾への理解と関心を深める機会となりました。

ステージでは、横浜市立小学校による「アマモメッセンジャー」の発表や、東京湾再生官民連携フォーラムによるアマモ育成の実証実験の紹介など、多様な主体による東京湾再生に向けた取組が発信されました。展示ブースでは、東京湾沿岸自治体や企業等とともに横浜市港湾局も出展し、港湾物流を支える技術や環境保全、生物多様性に配慮した取組を紹介しました。また、屋外で開催した「東京湾マルシェ」では、地元農産物や特産品の販売などが行われ、多くの来場者が東京湾の恵みや港とのつながりを体感しました。横浜市港湾局では、今後も関係者との連携を通じて、東京湾と横浜港の魅力を発信してまいります。



オープニングセレモニーの様子「みんなでダー！」



横浜市港湾局を含む東京湾関係自治体出展ブース



屋外で開催した「東京湾マルシェ」の様子

●境港、徳山下松港、宇部港がサーキュラーエコノミーポートに選定されました。

(中国地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室)

国土交通省港湾局では、令和8年8月27日に、循環経済(サーキュラーエコノミー)の実現に向け、循環資源に関する物流ネットワークの拠点の形成や高度なりサイクル技術を有する産業の集積に取り組む港湾を「循環経済拠点港湾(サーキュラーエコノミーポート)」として29港を選定しました。

中国地方整備局管内においては、境港、徳山下松港、宇部港の3港が選定を受けましたので、それぞれの申請者である境港管理組合、山口県に対して選定証を交付いたしました。

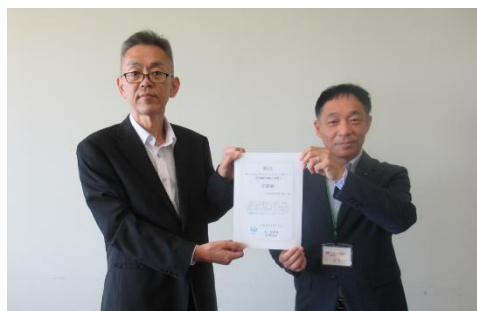
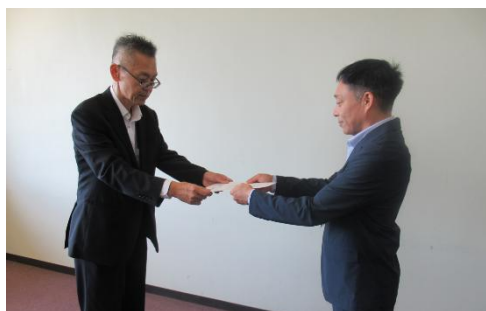
【サーキュラーエコノミーポートとは】

サーキュラーエコノミーとは、資源や製品の価値を維持、回復又は付加することで、循環的に利用する経済システムであり、製品等の長寿命化、再利用、リサイクル等の取組を循環資源の需給両面から促進し、天然資源利用や廃棄物排出を減少させる経済システムです。

サーキュラーエコノミーポートは、循環資源の流動・種類の増大、小口の循環資源の輸送ニーズへの対応、周辺環境や他の貨物への影響を防止するための対策など、サーキュラーエコノミーを巡る様々な社会的要請に取り組む港湾であり、港湾管理者、リサイクル関連企業、物流事業者、関係省庁など、多様な主体と共に連携しながら、サーキュラーエコノミーの実現を目指すものです。



選定証交付(境港管理組合)



選定証交付(山口県)

